

災害関連死ゼロの 社会を目指す

<27>

交通障害

交通障害には、道路の穴ぼこ、路肩の崩壊等の

の影響で渋滞になる場合もあります。

道路損傷、落下物等道路の異状等が挙げられますが、今回は年末に起きた強い寒気の流れ込みにより各地で大雪に見舞われた際の、車の立ち往生について述べていきます。

雪道で立ち往生した場合、まず一酸化炭素中毒に注意が必要です。車が雪に埋まったときは、原則、エンジンを切ります。それはマフラーが雪に埋まると排気ガスが車内に逆流し、一酸化炭素中毒を起すおそれがあるためです。防寒のためエンジンをはかる場合は、マフラーが雪に埋まらないように、こまめにマフラーのまわりを除雪する必要があります。

立ち往生とは、雪道などで滑りやすくなり、軟弱な路面上でタイヤのグリップ力が低下し、アクセルを踏んでもタイヤが空転して前に進まないという状態のことです。一台がこの状態になるとそ

要があります。

●スタックした場合の対処方法

●スタックした場合の対処方法
仮にスタックした場合、次の方法での対処が考えられます。

○新雪に埋もれて動かなくなった場合、まずは周辺の雪を除雪することから始める。

○アクセルをゆっくりと踏み、前進とバックを繰り返して、雪を踏み固めながら発進する。

※チェーンをまく。

※駆動輪の下にチェーンや布などを敷き、ゆっくりアクセルを踏む。

○FR車の場合は荷物をトランクに積むなどして、駆動輪の荷重を高め、ゆっくり発進する。

○同乗者などに車を押ししてもらおう。

○タイヤの空気を抜いて空気を下げ、雪面への接地面積を増やしゆっくり発進する。

○スタックしたタイヤの下と、タイヤの外周に砂を振りかけてグリップ力を増加させる。

どうしても脱出できない場合は、JAFやロードサービスに連絡し対応してもらいます。

●備えと対策

災害関連死ゼロフォーラム
<https://zero-forum.jp/>
一般社団法人地域防災支援協会
<https://www.boushikyo.jp/>
一般社団法人日本環境保健協会
<https://jeho.or.jp/>



雪路を走る場合、万が一に備えて除雪用のスコップや防寒着、毛布、寝袋の備えをしておく必要があります。また一酸化炭素中毒以外にもエコノミークラス症候群にも気を付ける必要があるため、車内で同じ姿勢にならないようにし、寒いのを我慢して体を動かしたり姿勢を変えていく必要があります。